

スポーツサングラスの使用状況に関する研究Ⅱ～ゴルフ競技を対象として～

¹大阪府立大学、²愛知工業大学、³順天堂大学、⁴三重大学

○吉井泉¹、石垣尚男²、河村剛光³、鶴原清志⁴

ゴルフ競技は、様々な気象環境下で紫外線や雨・風の天候の影響を受け、長時間継続してプレーを行っている。本研究では、ゴルフ競技におけるサングラスの使用実態をアンケート調査から明らかにすることを目的とした。調査は、高校・大学のゴルフ部員や一般・シニアゴルファーを対象とし、有効回答数は413名（15～86歳、男性：341名、女性：72名）であった。その結果、サングラスの使用は「練習時」34.3%、「試合時」43.0%であった。使用目的は「まぶしさの軽減」84.4%、「紫外線を防ぐ」50.8%が高く、「芝目や傾斜の認識」9.6%、「集中力向上」7.3%、「距離感の確保」0.5%と低かった。競技パフォーマンスを意識した使用よりも、眩しさの回避を目的とした使用が多いことが示唆された。これらの他の項目および各項目の関連について報告する。

空間定位における色の効果に関する研究～ゴルフにおける打撃を想定して～

順天堂大学スポーツ健康科学部

○周曉強、河村剛光

各スポーツにおける色の効果については、未だ明らかになっていないことも多い。本研究では、ゴルフの打撃を想定して2つの実験を行い、色が異なる場合の中心点を捉える精度の変化を検証することを目的とした。実験では、タッチパネル画面上に表示された円の中心をポイントする実験を実施した。各色（緑背景時6色、グレー背景時7色）の円状ドットに対し、タッチした位置と実際の中心位置に差があるか調べた。また、4色のゴルフボールを用いて、インパクト時のフェース角度とヘッドスピードの測定を行った結果、黄色ボールの場合はスイングが安定し且つ飛び距離が最も遠い傾向が見られたが、被験者数が少ないために引き続き検証したい。

サッカーにおける複数対象追跡時の視覚探索方略の検討

¹一般社団法人行動評価システム研究所、²九州工業大学大学院

○古門良亮¹、磯貝浩久^{1・2}、神力亮太²、佐久間智央²

スポーツにおいて、複数対象追跡(Multiple-Object-Tracking, 以下 MOT)スキルの重要性が提唱されている(Jocelyn and Lee, 2012)。MOT とは移動する複数の対象の動きを同時に追跡するスキルであり、サッカーなどのゴール型スポーツにおいて重要であると指摘されている。

しかし、MOT 課題実施時の有効な視覚探索方略や注意の向け方については検討されていないため、本研究では、これらを明らかにすることを目的とした。まず、大学サッカー選手 29 名を対象にニューロトラッカーを用いて MOT スキルの測定を行った。そして、実践的なサッカー場面での MOT 課題映像を作成し、EMR-9(NAC 社製)を用いて視覚探索方略および有効な注意の向け方について検討した。その結果、MOT スキルが高い選手は低い選手に比べて視線の移動距離が有意に短く、Multifocal モデルによる注意の向け方をしていることが推察できた。

健常青年における視能訓練効果について

北里大学大学院医療系研究科 修士課程

○庄司治子、半田知也、庄司信行

両眼開放下で弱視眼のみを使用させるタブレット型弱視訓練弱視装置 Occlu-pad®を健常青年が使用した際の視能訓練効果について検討を行った。両眼開放下にて両眼・片眼(右眼・左眼)への刺激を Occlu-pad®にて各 90 分間行い、30 分ごとに眼優位性・他覚的屈折値・眼位検査を定量的に評価した。対象者は健常青年 12 名である。両眼刺激で特記する変化は得られなかった。一方、片眼刺激において 12 名中、右眼刺激にて 6 名、左眼刺激において 5 名の眼優位性の変化を認めた。両眼開放下の片眼刺激において、健常青年の眼優位性が変化する可能性が示唆された。

直球（150km/h）を見るトレーニングを行った主力打者の内省の経時的变化 ～主力打者の語りをしてがかりに～

¹鹿屋体育大学大学院、²エプソン販売株式会社、³鹿屋体育大学

○鈴木智晴¹、山崎大夢²、蔭山雅洋³、藤井雅文¹、中本浩揮³、前田明²

本研究は、直球（150km/h）を見るトレーニングを行った主力打者の内省に着目し、トレーニングに関する実践知を明らかにするとともに、打撃パフォーマンス向上に貢献できる知見を導くことを目的とした。対象者は、鹿児島県大学野球連盟に所属するK大学に所属し最優秀打者賞を受賞した主力打者の1名とした。トレーニングやトレーニング前後の測定に関して、半構造的インタビューを行い、語りの内容を質的に分析した。その結果、トレーニング前後において、内省の変化が見られた、さらに、トレーニング中の意識として、「漠然とボールを見るというよりは、ボールがどんな軌道でどのコースを通ったのかを常に意識していた」という語りを得られた。

スポーツビジョン測定・トレーニング新機材の開発について

スポーツビジョン研究会

○飯島隆

スポーツビジョン研究会での測定は7機種8項目で実施しているが、一部の測定機材は製造中止になっており、新規活用希望者の導入が困難な状況であった。この問題を解決すると共に新たなトレーニングメニューも導入した機材を開発した。先ずはこの研究集会で発表する。